

教育研究業績書

令和5年5月1日

氏名 破田野 智美（竹澤 智美）



教育上の能力に関する事項

事項	年 月	概要
1 教育方法の実践例		特記事項なし
2 作成した教科書・教材		特記事項なし
3 教育上の能力に関する大学等の評価		特記事項なし
4 実務の経験を有する者についての特記事項		特記事項なし
5 その他		特記事項なし

職務上の実績に関する事項

事項	年 月	概要
1 資格、免許		特記事項なし
2 学校現場等での実務経験		特記事項なし
3 実務の経験を有する者についての特記事項		特記事項なし
4 その他		特記事項なし

担当授業科目に関する研究業績等

担当授業科目	著書、学術論文等の名称	単著 共著	発行年月	出版社又は発行雑誌等の名称	執筆ページ数 (総ページ数)	概 要
心理学概論 1 心理学入門 心理学研究 心理学実験法 心理学基礎 セミナー1 心理学基礎 セミナー2 心理学専門 セミナー1 心理学専門 セミナー2 心理学専門 セミナー3 心理学専門 セミナー4 地域課題型	(著書) 1. 「対人援助学」キーワード集 2. 視覚ワールドの知覚	共 共	2009年4月 2011年3月	晃洋書房 新曜社	14ページ (254ページ) 抽出不可 (320ページ)	望月昭・中村正・サトウタツヤ（編）竹澤智美単独で以下の項目を執筆した。 概要：対人援助に関わる人々の基礎知識として役立てることを念頭に、「閾 (p.8), 近視・遠視・乱視 (p.60), 恒常性 (p.70-71), 視覚発達 (p.88), 色覚異常 (p.88-89), 弱視と斜視 (p.103), 視力検査 (p.114-115), 中途失明 (p.154), 聴覚障害（難聴） (p.154-155), 聴力検査 (p.156)」の各語について解説した。 東山篤規・竹澤智美・村上嵩至（共訳） (Gibson, J. J. (1950). <i>The Perception of the Visual World.</i>)

様式第4号 (教員個人に関する書類)

卒業研究 自由課題型 卒業研究					ジ)	共訳者 3 名で手分けして各章を訳し、1 文ずつ読み合わせたうえで、全章 3 名の責任で訳文を決定した。 概要: J. J. Gibson が 1955 年に著した The Perception of the Visual World の邦訳である。「なぜ物に見えるように見えるのか」という根源的な問いを正面に据え、われわれが見ている世界、すなわち「視覚ワールド」の刺激対件である網膜像のなかに、問いに対する答えを見出した。他学派の考え方との違いや、生得的なものと学習されるもの、視覚と身体感覚との関わりなど、多角的視点で、その答えを検討した。
	3. 写真のなかの距離の知覚	単	2018 年 1 月	風間書房	304 ページ	竹澤智美 (単著) 概要: 平成 29 年度科学研究費助成事業 (科学研究費補助金) 研究成果公開促進費による助成を受け、2016 年に立命館大学に提出した学位請求論文を、多くの読者に向け大幅に書き改めた。写真に写ったものまでの絶対距離と、写った 2 つのもの間の相対距離について、実際に見える距離を測定し、写真のなかに見える距離は、撮影時の本当の距離や実際空間で見える距離とは必ずしも一致しないこと、予測式に含まれる要因の操作によって規則的に変化することを示した。
	4. 要点で学ぶ、色と形の法則 150	共	2020 年 7 月	ビー・エヌ・エヌ 新社	151 ページ (320 ページ)	名取和幸・竹澤智美 (共著) 「色の法則」と「形の法則」の前後半からなる内容のうち、竹澤智美単独で「形の法則」を担当した。 概要: デザイン関係者をはじめとした一般読者に向けて、ものの見え方や感じ方に関わる「形の法則」75 項目 (p.164-315) を簡潔な文章と、わかりやすい図で解説した。錯視や写真の見え方など、身近で役立つ、興味深い現象を広く取り扱うことで、これまで蓄積されてきた専門的な知見や、それに関わる事実に興味を持ち、関係分野の入り口となるような書籍を志向した。
	5. ヒトの感性に寄り添った	共	2021 年 11 月	技術情報協会	14 ページ	竹澤智美・片平建史・杉本匡史・長田典子・千葉正貴・濱岡和輝・

	<p>製品開発とその計測・評価技術</p> <p>(学術論文) 査読付き研究論文</p> <p>1. 静止画像上の人物に対する奥行距離の知覚</p>	<p>単</p>	<p>2005 年 3 月</p>	<p>『基礎心理学研究』, 23, 177-182.</p>	<p>(655 ページ)</p>	<p>深津恵・片岡郷 (共著) 上記 8 名の共同研究の結果をもとに「第 8 章 第 2 節 アロマオイルの心理的効果とその評価」を竹澤智美が執筆した。 概要:2020 年 5 月の COVID-19 流行下, 子育て中の 30-40 代の男女 30 名に 1 日 5 回定時に, 6 日間に渡って日常生活に関する記録とその報告を求めた(経験サンプリング法)。その結果, ストレス構造を可視化すると同時に, 芳香浴を行うことで, これらのストレスを緩和することを実証した。この際, 気分の変化やエッセンシャルオイルの印象を測定し, 可視化した。これらの測定技術, および可視化の技術を紹介した。</p> <p>竹澤智美 (単著) 概要:実際空間を撮影した画像上で, 人物像の大きさと位置を変えて所定の見えの距離に調整することによって, カメラから特定の人物までの奥行距離(絶対距離)と遠近二人の人物間の奥行方向の隔たり(相対距離)の見え方を測定した。人物の背景にかかわらず, 50mm 標準レンズで撮影した画像を撮影時の画角と観察時の視角が一致する条件で観察する場合には, 絶対距離は撮影時の客観的距離によく一致して知覚されるが, 相対距離は過小に知覚されることを示した。</p> <p>竹澤智美 (単著) 概要:人物までの絶対距離を直接見積もるならば, 知覚的絶対距離が客観的絶対距離や実際空間で得られる知覚的絶対距離に近似しうことを示した。このことは, 絶対距離が画像や網膜上を占める人物像の大きさに依存して知覚されることを示している。他方, 二人の人物のうち一方の人物までの絶対距離を基準 100 として, もう一方の人物までの絶対距離を整数値で間接的に判断する場合や, 相対距離を見積もる場合には,</p>
	<p>2. 画像上の人物に対する知覚的奥行距離と測定方法との関係</p>	<p>単</p>	<p>2006 年 9 月</p>	<p>『立命館人間科学研究』, 12, 33-44.</p>		

	<p>3. 撮影レンズの焦点距離が画像上の奥行距離と側方距離の知覚に及ぼす影響</p>	<p>単</p>	<p>2007 年 11 月</p>	<p>『映像情報メディア学会誌』, 61, 1649-1652.</p>	<p>二人の人物像の間に知覚される相対的な大きさ関係に依拠すると考えられる。</p> <p>竹澤智美 (単著) 概要：撮影レンズの焦点距離が画像上の被写対象に対する距離知覚に及ぼす影響について検討し、被写対象までの知覚的絶対距離は焦点距離に反比例して変化するが、被写対象間の奥行方向の隔たり (相対距離) や水平方向の隔たり (側方距離) の知覚に焦点距離が及ぼす影響は小さいことを示した。このことから絶対距離は被写対象像の絶対的な大きさに依存して知覚されるが、相対距離や側方距離は被写対象像の相対的關係に依存して知覚されると考えられる。</p>
	<p>4. 人物写真の逐次呈示による人物像の前後移動の知覚とその仕組みについて</p>	<p>共</p>	<p>2008 年 3 月</p>	<p>『認知科学』, 15, 110-119.</p>	<p>北橋忠宏・竹澤智美 (共著) データ分析を主として行い、協力してモデルの構築、論文の執筆を行った。</p> <p>概要：同じ人物を撮影した二枚の写真が継時的に呈示される場合、一枚目の写真から二枚目の写真で人物がカメラから離反する場合よりも、接近する場合で人物の移動の検出が容易であり、知覚的移動距離が大きいことを示した。また知覚的移動距離は総じて過小であり、客観的移動距離が同じ条件では、人物がカメラから遠い条件で知覚的移動距離が小さくなった。これらのことは知覚的移動距離が二枚の写真の人物像の大きさ比に依存することを示しているため、大きさ比に基づく知覚的移動距離の予測式を提案した。</p>
	<p>5. 撮影レンズの焦点距離が画像に写る人物の知覚的奥行距離に及ぼす影響</p>	<p>単</p>	<p>2008 年 9 月</p>	<p>『基礎心理学研究』, 27, 32-35.</p>	<p>竹澤智美 (単著) 概要：焦点距離を操作して人物を撮影し、人物まで知覚的絶対距離と 2 人の人物間の知覚的相対距離とを測定した。知覚的絶対距離は焦点距離とほぼ反比例の關係にあり、画面や網膜上を占める人物像の大きさに依存すること、焦点距離が知覚的相対距離に及ぼす影響は人物像の大きさの変化から期待される場合に比べて</p>

	<p>6. The effect of retinal size on the perception of distance in photographs</p>	<p>単</p>	<p>2011 年 9 月</p>	<p>『Perception』, 40, 798-804.</p>	<p>極めて小さく, 知覚的相対距離は焦点距離を操作しても一定に保たれる 2 つの人物像の大きさ比に依存する可能性を示した。</p> <p>Takezawa, T. (単著) 概要: 焦点距離, 画面の大きさ, 観察距離を操作し, 写真上の対象までの知覚的絶対距離は, 焦点距離や画面の大きさにともない小さく, 観察距離にともない大きくなることを示した。このことは知覚的絶対距離が対象の像の網膜上を占める大きさに依存することを意味する。しかし網膜の大きさの変化に対して, 焦点距離の効果は相対的に大きく, 観察距離の効果は小さかった。つまり知覚的絶対距離は, 対象の像の画面上の絶対的大きさや画面を占める割合にも依存する。</p>
	<p>7. Perceived relative distance depends on the size ratio of targets in photographs</p>	<p>単</p>	<p>2013 年 4 月</p>	<p>『Perception』, 42, 282-293.</p>	<p>Takezawa, T. (単著) 概要: 写真のなかのものの奥行き方向の距離は, 対象の像が網膜上を占める大きさに依存して知覚されると考えられ, この網膜の大きさとは知覚的距離とのかわりが検討されてきた。しかし, 2 つのもの間の奥行き方向の隔たりである相対距離は, 網膜の大きさよりも, 2 つの対象の像の画面上の大きさ比に依存することが示唆された。カメラから対象までの撮影距離とレンズの焦点距離とを操作し, 一つの対象の像の大きさを一定に保ったまま大きさ比を操作して, 知覚的相対距離の予測式を得た。</p>
	<p>8. ケーキの写真のおいしさの印象とレンズの焦点距離および撮影角度</p>	<p>単</p>	<p>2019 年 3 月</p>	<p>『立命館人間科学研究』, 39, 39-48.</p>	<p>竹澤智美 (単著) 概要: 写真の印象と撮影方法との関係に注目し, 画面上で変化する対象の像にともない, 写真のなかの食べ物の印象が規則的に変化することを示した。一般に流布する写真表現では, 食べ物は斜め 45 度上方から大きく写すことが推奨される。確認のためショートケーキをのせた皿を, 焦点距離および撮影角度を操作して撮影した。大学生がおいしさなどの印象を評定した結果, 一般に推奨され</p>

様式第4号 (教員個人に関する書類)

	<p>9. 色の好みとパーソナリティとの関係:色の感情的意味からの考察</p>	<p>共</p>	<p>2019年3月</p>	<p>『日本色彩学会誌』, 43</p>	<p>るカメラの位置や、普段の食事のときよりも、皿に近く、低い角度に見えるときにおいしく見えることを指摘した。</p> <p>松田博子・名取和幸・破田野智美(共著) 主にデータ分析および図表の作成を担当し、本文執筆を全文に渡り協力して行った。 概要:大学生が75色の色票から好きな色、着たい色、よく着る色を選択し、後日、YG性格検査を受けた。事前に測定された色のイメージと、各色を選択した大学生のYG性格検査の得点との関係に検討を加えた結果、自分の性格に似たイメージの色を好んだり、着たいと思ったり、実際に身に着けたりする傾向がみられた。またこの傾向には、性別やイメージの項目、YG性格検査の尺度によって違いがみられることが明らかになった。</p>
	<p>10. 写真の室内空間の広さの見え方は知覚的絶対距離で変わる</p>	<p>単</p>	<p>2020年3月</p>	<p>『立命館人間科学研究』, 41, 1-15.</p>	<p>竹澤智美(単著) 概要:従来、室内空間を撮影するときには、撮影時のカメラから壁までの絶対距離を大きく、レンズの焦点距離を短くすることで、広く写すことができるといわれてきた。この問題を実験的に検討するため、撮影時の客観的距離や焦点距離を操作し、知覚的距離と空間の広さの印象を測定した。その結果、広さの印象は、客観的距離や焦点距離にともない変化する奥の壁の像の大きさに依存して知覚される絶対距離に応じて規則的に変わることを示した。</p>
	<p>11. COVID-19流行下の外出制限期間のストレス構造と芳香浴による緩和効果</p>	<p>共</p>	<p>2021年8月</p>	<p>『ヒューマンインタフェース学会論文誌』, 23, 337-348.</p>	<p>竹澤智美・神吉佑菜・片平建史・杉本匡史・渋谷一夫・長田典子・千葉正貴・濱岡和輝・深津恵・片岡郷(共著) 調査の計画立案、実施、データ分析を主となって担当し、原稿を整えた。 概要:日本がCOVID-19流行にともなう緊急事態宣言下にあった2020年5月、30代・40代で配偶者や子どもと同居の参加者の自宅に芳香浴用の機材を送付した。参加者には困っ</p>

	<p>12. 評価グリッド法を用いた演劇の送り手への聴取に基づく対面ライブと配信演劇のよさの構造の比較</p>	<p>共</p>	<p>2023年3月</p>	<p>『電子情報通信学会論文誌A』, J106-A, 3, 146-149.</p>	<p>たときや解決したいことがあるとき芳香浴をするよう求めた。6日間の期間中、1日5回、芳香浴をしたときの様子を記録した結果、ストレスを感じた状況の異なる、参加者の4つのグループが得られた。いずれのグループも、芳香浴後に気分がポジティブに変化することを確認した。</p> <p>竹澤智美・広田すみれ (共著) 広田教授との共同研究のなかで行った調査で、本稿の範囲については計画立案、実施、データ分析を主となって担当し、原稿を整えた。 概要：コロナ禍状況時の演劇の対面ライブと配信のよさの違いを、演劇の専門家7名から、評価グリッド法に基づき聴取した。前者は視覚が自由で感覚知覚を共有して感動を得られ、後者はでかける必要がなく作品に触れる機会が増えるなど、それぞれのよさを可視化した。これにより演劇の送り手である専門家同士、受け手である観客との間で、知識として共有することが可能となった。重要とされるよさを拡充し、不足を補うことで、今後の対面及び配信での新しい展開につながる可能性がある。</p>
<p>査読なし研究論文</p>	<p>13. ミュラー・リヤー錯視の遠近法説に関する検討：網膜像的に等価な三次元および二次元布置の錯視を用いて</p>	<p>単</p>	<p>1999年9月</p>	<p>『立命館文学学生論集』, 5, 1-15.</p>	<p>竹澤智美 (単著) 専攻の卒業論文を代表して選出、掲載された。 概要：幾何学的錯視の発生機序を三次元性の空間布置と関連付けて検討することを目的とし、三次元布置と二次元布置のミュラー・リヤー錯視を作成して錯視量を測定した。その結果、二次元布置と比較して錯視量は減少するが、三次元布置でも錯視が生じることを示し、ミュラー・リヤー錯視は遠近法的に奥行きが暗示され、しかもそれが実際とは違った奥行きである場合において生起するとする説のみではその発生機序を説明できないことを示唆した。</p>
	<p>14. 直立および車椅子使用に</p>	<p>共</p>	<p>2002年3月</p>	<p>『立命館人間</p>	<p>竹澤智美・對梨成一・土田宣明・松田隆夫 (共著)</p>

	<p>よる傾斜面角度の知覚と車椅子によるスロープ昇降の難易度評価</p>			<p>科学 研究』, 3, 37-46.</p>	<p>松田教授と土田助教授の指導を受け、對梨氏と協力して実験の計画立案, 実施, データ分析, 論文の執筆をした。</p> <p>概要：健常な大学生を対象とし、床面の知覚的な傾斜角度と、傾斜面上を車椅子で移動する場合の難易度を測定した。その結果、直立または車椅子座位の状態で静止の場合、歩行する場合、車椅子で移動する場合のいずれの条件においても、傾斜角度は客観的角度の2~3倍に知覚判断されることを示した。また、わずかな傾斜であっても車椅子移動の難易度は高く、公共機関に実際に設置されたスロープの調査結果に鑑みると、角度を基準以下に保つことが必要であることを提言した。</p>
	<p>15. 画像上の人物に対する絶対距離と相対距離の知覚</p>	<p>共</p>	<p>2002年 11月</p>	<p>『立命館人間科学研究』, 4, 9-18.</p>	<p>松田隆夫・竹澤智美 (共著)</p> <p>松田教授の指導を受け、一部実験の計画立案, 実施をしたうえで、全体のデータ分析を行い、論文の執筆に協力した。</p> <p>概要：実際空間を撮影した静止画像を観察して距離をメートル単位で見積もる方法と、画像上の人物像の大きさと位置を変えて所定の見えの距離に調整する方法の双方で、カメラから特定の人物までの奥行距離（絶対距離）と遠近二人の人物間の奥行方向の隔たり（相対距離）の見え方を測定した。50mm標準レンズで撮影した画像を撮影時の画角と観察時の視角が一致する条件で観察する場合には、絶対距離は撮影時の客観的距離によく一致して知覚されるが、相対距離は過小に知覚されることを示した。</p>
	<p>16. 写真の長短比と大きさが写真の印象評定に与える影響</p>	<p>共</p>	<p>2003年3 月</p>	<p>『立命館人間科学研究』, 5, 171-185.</p>	<p>大中悠起子・竹澤智美・松田隆夫 (共著)</p> <p>松田教授の指導を受け、大中氏と協力して実験の計画立案, 実施, データ分析, 論文の執筆をした。</p> <p>概要：いわゆるパノラマ写真では広視界感が得られるが、実際には画面に映りこむ範囲の拡張ではなく、画面上下の切り取りによって長短比が操作されているに過ぎない。こうし</p>

様式第4号 (教員個人に関する書類)

	17. 写真のなかの距離の知覚	単	2016年1月	立命館大学学位申請論文, 全348ページ.		<p>た写真の長短比と撮影される外界の範囲(画角), 画面の大きさ, 観察距離と「迫力感」, 「奥行き感」, 「広さ」, 「パノラマ感」, 「現実感」, 「安定感」の関係に検討を加えた。その結果, 長短比の大きい条件ではパノラマ感が増大し, 逆に奥行き感が小さくなることを示した。</p> <p>竹澤智美(単著) 概要: 10の実験結果に基づき, 写真のなかの距離の見え方についてまとめた。写真上の対象までの絶対距離と, 2つの対象間の奥行き方向の隔たりである相対距離とは, 異なる手がかりに基づき知覚されること, それぞれの知覚的距離は必ずしも実際の距離に一致しないが, 撮影時のカメラあるいはほかの対象からの距離, 焦点距離, 画面の大きさ, 観察距離に応じて規則的に変化すること, したがって測定結果に基づく知覚的距離の予測式が得られることを示した。</p>
ヒューマン ファクター とデザイン の心理学	(著書) 1. 「対人援助学」キーワード集	共	2009年4月	晃洋書房	14ページ (254ページ)	<p>望月昭・中村正・サトウタツヤ(編) 竹澤智美単独で以下の項目を執筆した。 概要: (重複) 知覚のディサビリティについての記述であり, デザインに施すべき工夫に関連する。</p>
	2. 視覚ワールドの知覚	共	2011年3月	新曜社	抽出不可 (320ページ)	<p>東山篤規・竹澤智美・村上嵩至(共訳) (Gibson, J. J. (1950). The Perception of the Visual World.) 共訳者3名で手分けして各章を訳し, 1文ずつ読み合わせたうえで, 全章3名の責任で訳文を決定した。 概要: (重複) 「なぜ物に見えるように見えるのか」というデザインに関わる根源的な問いに答えると同時に, デザインの重要な概念であるアフォーダンスの萌芽を含む内容である。</p>
	3. 写真のなかの距離の知覚	単	2018年1月	風間書房	304ページ	<p>竹澤智美(単著) 概要: (重複) 写真や実写映画をどこからどのように撮り, どのように提</p>

	<p>4. 要点で学ぶ、色と形の法則 150</p> <p>(学術論文) 査読付き研究論文</p> <p>1. ケーキの写真のおいしさの印象とレンズの焦点距離および撮影角度</p> <p>2. 評価グリッド法を用いた演劇の送り手への聴取に基づく対面ライブと配信演劇のよさの構造の比較</p> <p>査読なし研究論文</p> <p>3. 直立および車椅子使用による傾斜面角度の知覚と車椅子によるスロープ昇降の難易度評価</p>	<p>共</p>	<p>2020年7月</p> <p>2019年3月</p> <p>2023年3月</p> <p>2002年3月</p>	<p>ビー・エヌ・エヌ新社</p> <p>『立命館人間科学研究』, 39, 39-48.</p> <p>『電子情報通信学会論文誌A』, J106-A, 3, 146-149.</p> <p>『立命館人間科学研究』, 3, 37-46.</p>	<p>151 ページ (320 ページ)</p>	<p>示すれば任意の距離に見えるのか予測可能にした。この知見はアニメーションやイラストなど、実写以外の画像にも応用可能である。</p> <p>名取和幸・竹澤智美 (共著) 「色の法則」と「形の法則」の前後半からなる内容のうち、竹澤智美単独で「形の法則」を担当した。 概要: (重複) デザイン関係者に向けた、ものの見え方や感じ方に関わる書籍である。</p> <p>竹澤智美 (単著) 概要: (重複) web 広告やレストランのメニューの料理写真を念頭に、おいしく見える撮影方法を実験的に検討した。</p> <p>竹澤智美・広田すみれ (共著) 広田教授との共同研究のなかで行った調査で、本稿の範囲については計画立案, 実施, データ分析を主となって担当し, 原稿を整えた。 概要: (重複) 演劇の対面ライブと配信のよさ可視化し, 舞台や配信のデザインに関わる提言をした。</p> <p>竹澤智美・對梨成一・土田宣明・松田隆夫 (共著) 松田教授と土田助教授の指導を受け, 對梨氏と協力して実験の計画立案, 実施, データ分析, 論文の執筆をした。 概要: (重複) 知覚的な傾斜角度を測定したうえで車いす用スロープのデザインについて論じた。</p>
--	--	----------	---	---	--------------------------	--

様式第4号 (教員個人に関する書類)

高齢者心理学 老年心理学 特論	(著書) 1. 「対人援助学」キーワード集	共	2009年4月	晃洋書房	14ページ (254ページ)	望月昭・中村正・サトウタツヤ(編) 竹澤智美単独で以下の項目を執筆した。 概要:(重複) 知覚のディサビリティについての記述であり, 加齢にともなう知覚能力の変化に関連する。
	2. 要点で学ぶ、色と形の法則150	共	2020年7月	ビー・エヌ・エヌ新社	151ページ (320ページ)	名取和幸・竹澤智美(共著) 「色の法則」と「形の法則」の前後半からなる内容のうち, 竹澤智美単独で「形の法則」を担当した。 概要:(重複) ものの見え方や感じ方に関わり平易にまとめた書籍であり, 加齢にともない変化する知覚能力に関わる。
	3. ヒトの感性に寄り添った製品開発とその計測・評価技術	共	2021年11月	技術情報協会	14ページ (655ページ)	竹澤智美・片平建史・杉本匡史・長田典子・千葉正貴・濱岡和輝・深津恵・片岡郷(共著) 上記8名の共同研究の結果をもとに「第8章 第2節 アロマオイルの心理的効果とその評価」を竹澤智美が執筆した。 概要:(重複) 30-40歳代の子育て中の男女30名の日常生活を6日間に渡り1日5回記録し, ストレスを可視化した。このストレスは, その年代にあるときの問題にとどまらず, 高齢になったときの問題にも繋がる。
	(学術論文) 査読なし研究論文 1. 直立および車椅子使用による傾斜面角度の知覚と車椅子によるスロープ昇降の難易度評価	共	2002年3月	『立命館人間科学研究』, 3, 37-46.	竹澤智美・對梨成一・土田宣明・松田隆夫(共著) 松田教授と土田助教授の指導を受け, 對梨氏と協力して実験の計画立案, 実施, データ分析, 論文の執筆をした。 概要:(重複) 車いす用スロープのデザインは, 高齢者で使用可能性の高まる車椅子での移動に深く関わる。	

様式第4号 (教員個人に関する書類)

心理学統計 法3 多変量解析 基礎 多変量解析 特論	(著書) 1. 写真のなか の距離の知覚	単	2018年1 月	風間書 房	304 ペ ージ	竹澤智美 (単著) 概要: (重複) 重回帰分析や分散分析 を応用した研究例である。
	2. ヒトの感性 に寄り添った 製品開発とそ の計測・評価技 術	共	2021年 11月	技術情 報協会	14 ペー ジ (655 ペー ジ)	竹澤智美・片平建史・杉本匡史・ 長田典子・千葉正貴・濱岡和輝・ 深津恵・片岡郷 (共著) 上記8名の共同研究の結果をもとに 「第8章 第2節 アロマオイルの心 理的効果とその評価」を竹澤智美が 執筆した。 概要: (重複) 因子分析, クラスタ分 析, 多次元尺度構成法を応用した研 究例である。